



# 駿府と今川氏

第12回

## 少年時代の義元がいた駿府の善得院

### 京都で生活した こともある義元

今川氏は、将軍家である足利氏の  
の一門である。そのため、結構、  
足利氏のやり方を模倣している  
ところがある。子どもを禅寺に入れ  
るところなど、そっくりである。

これは、一つには兄弟の家督争  
いを未然に防ぐためと、寺で学問  
をつけさせるといふ二つのねらい  
があった。

跡継ぎの男子は一人ではないが、  
男子が一人だけでは、その子が病  
気で死んでしまったり、合戦で戦  
死してしまうこともあり、一人だ  
けでは不安である。

しかし、その一方で何人も男子  
がいると争いの種になることも確  
かで、それを防ぐために、跡継ぎ  
候補を一人だけ残し、あとは寺に  
入れることになる。

氏親の場合、嫡男氏輝が病弱だ  
ったため、次男の彦五郎を出家さ  
せなかったものと思われるが、あ  
と三男玄広恵探、四男象耳泉契、  
五男梅岳承芳は、その名前からも  
わかるように寺に入れられてい  
た。

のちに義元となる五男の梅岳承  
芳は、はじめ駿河国富士郡の善得

寺という寺に入っている。そして、  
養育係となった九英承菊（のちの  
太原崇孚）、すなわち雪斎に伴われて  
京都の建仁寺、次いで妙心寺で修行  
をしている。子どものころの義元は、  
京都の有名な禅寺に入っていたので  
ある。

### 富士の善得寺と 駿府の善得院

京都では、氏親の子どもという血統  
の良さも手伝って、公家の三条西実隆  
や近衛植家らと交流している。これ  
が、後年、義元を頼って公家たちが駿  
府に流寓（放浪して他郷に住むこと）  
する要因になったことは間違いない。

父氏親が没し、兄氏輝が家督を継  
いでまもなく、梅  
岳承芳、すなわち  
義元は、雪斎とと  
もに善得寺に戻っ  
ている。なお、善  
得寺は明治初年に  
廃寺となり、今は  
富士市今泉に善得  
寺公園として一部  
が残るだけである。

この善得寺の子  
院が駿府にあった。



▲大伽藍を誇った善得寺跡（富士市今泉）

撮影：水野 茂

氏親の母北川殿が住んでいたとこ  
ろが、彼女の死後、善得院になっ  
ていたのである。ちなみに、善得  
院の址に臨濟寺が建立されている  
ので、少年時代の梅岳承芳は、ち  
ようど今の臨濟寺のところにあつ  
た善得院と、富士の善得寺とを行  
ったり来たりしていたものと思わ  
れる。

そして注目されるのは、駿府の  
善得院を京下りの公家たちが訪  
れ、しばしば詩歌会が開かれてい  
た点である。梅岳承芳が漢詩を作  
り、それに冷泉為和ら公家が和歌  
を詠み、詩と和歌による連歌のよ  
うな楽しみ方がされていたことが  
冷泉為和の歌集『為和集』によつ  
てわかる。